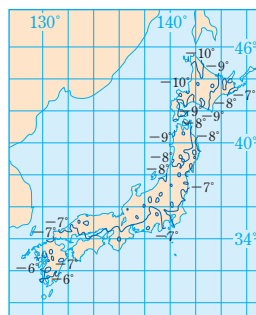
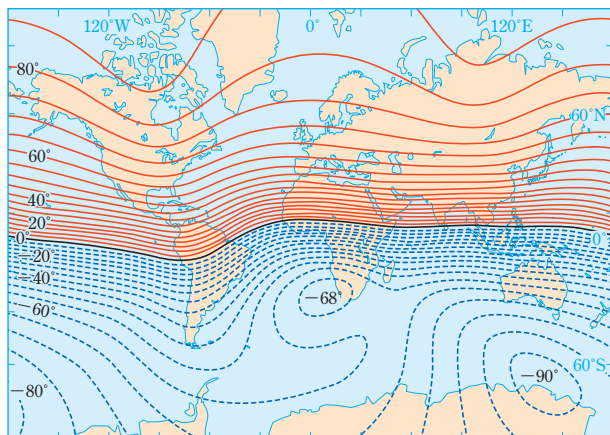


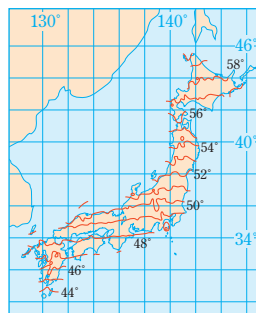
▲図 38 地磁気の偏角の分布(2010 年)



真北を 0° とし、東へのずれを正(赤い実線)、西へのずれを負(青い破線、日本地図は実線)で示す。偏角は航海をする上で重要である。



▲図 39 地磁気の伏角の分布(2010 年)



北に向かって下向きを正(赤い実線)、上向きを負(青い破線)で示す。極地方では伏角は 90° に近い。地磁気が逆転するときは、伏角も逆転する(→ p. 36)。

地上での磁場の測定を継続的に行っている地磁気観測所は、現在世界中に約 200 か所ある。^{かきおか}茨城県の柿岡(北緯 36°14′, 東経 140°11′)にある気象庁の地磁気観測所もその 1 つである。柿岡での 2007 年の地磁気の三要素は、偏角 $-7^{\circ}04.9'$ ^{*1}, 伏角 $49^{\circ}44.5'$ ^{*2}, 水平分力 29984 nT である。

*1 偏角は、真北の方向を 0° として、東へずれた場合を+, 西へずれた場合を-で表す。例えば磁石の N 極が真北から東へ 30° ずれた場合は +30°(あるいは 30°E), 西へ 30° ずれた場合は -30°(あるいは 30°W)と表す。

*2 1 T(テスラ)は磁場に垂直に置かれた導線に、1 A の電流を流したとき、1 m あたりに 1 N の力を及ぼす磁場の強さである。また、1 nT(ナノテスラ)= 10^{-9} T である。